



# 遠藤れい子ひまわりレポート

○遠藤れい子事務所 〒940-0052 長岡市神田町3-1-3  
☎ 0258-32-1741 fax 32-6443



原発再稼働ストップ

## 市内3団体が共同で長岡市に要請

①国保料を引き下げて。子ども均等割りを無くして。②带状疱疹ワクチン接種に助成を。③補聴器購入助成制度の年齢制限を無くして。



2/20水島福祉保健部長(中央)に申し入れる3団体の代表と市議団、遠藤れい子前県議(右から3番目)

2月20日、長岡市社会保障推進協議会、ながおか自治体研究所、長岡の介護と医療を考える会の3団体16人が参加して、長岡市に3点の申し入れをしました。市からは水島福祉保健部長、小林国保年金課長、五十嵐長寿はつらつ課長、植村保健医療課長の4氏が応対しました。日本共産党から笠井のりお、服部耕一、長坂まさしの3市議と遠藤れい子前県議が同席しました。

### 【3つの要請事項】

大崎社保協会会長が要請書を水島福祉保健部長に手交し、要請内容を説明。平澤自治研理事長、竹島介護と医療の会長もそれぞれ発言し要請しました

①国保基金も活用し国民健康保険料を引き下げてください。国に対して子ども均等割の廃止を求めてください。

②带状疱疹ワクチン接種に公費助成制度を新設してください。

③補聴器購入費用補助制度の年齢制限を撤廃してください。

### 【市の回答】

①国保基金は21億円余りあるが、令和5年度末をピークに減少傾向になる見通し。県への納付金も上がっているが、市民の負担軽減になるよう努めたい。

②带状疱疹は80歳までに3人に1人が発症するといわれている。国も定期接種の検討をしている。その動向をみて、長岡市医師会

の意見も聞き、助成が必要かどうか検討したい。

③補聴器購入補助制度の対象を絞ったのは、若い人の認知症発症リスクを抑えることを目的に50歳から74歳までとした。県の調査動向を注視したい。

### 【懇談の模様と要望】

市の回答は私たちの要望と隔たりが大きく、参加者が次々に発言、遠藤れい子も発言し要望しました。国保基金は令和元年度の

12億円が令和4年度21億円へと大幅に増えている。物価高騰の今、国保料の引き下げを。特に子ども均等割りは廃止すべき。

带状疱疹で苦しむ人が増えている。抗ウイルス薬は高い。ワクチン予防すれば医療費の軽減にもつながる。難聴はQOLを下げる。

75歳以上の生活の質を守ることが必要で、年齢制限をなくしてほしい。

### 確定申告は納税者の権利

1円単位で、正確に、正直に申告を！

### 確定申告が始まる

確定申告は憲法に定められた納税者の権利です。発注書、納品書、請求書、領収書など整理し、1円単位で記帳するなど当たり前です。各自しっかり申告しましょう。

当たり前です。しかし、岸田首相をはじめ、自民党国会議員は裏金を追及され、「収支も、使途も『不明』の訂正で済み」との報道も。こんなこと許せません。

遠藤れい子の笑顔でファイト

信じがたい自民党と議員のずさんさ！  
収支は一致して

政治資金パーティーや企業団体献金の全面禁止、政治資金規正法の抜本改正が必要です。国民の力で、選挙によって、政治を転換しましょう！